

様式Q

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
射水市	射水市	平成29年度～令和3年度	平成29年度～令和3年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成27年度)	目 標 (令和4年度) A	実 績 (令和4年度) B	実績 /目標
排出量	事業系 総排出量			
	1 事業所当たりの排出量	2.35 t	2.10 t	2.74 t 130 %
	生活系 総排出量	19,879 t	17,904 t	19,129 t 107 %
	1 人当たりの排出量	198.51 kg/人	178.67 kg/人	198.05 kg/人 111 %
合 計 事業系生活系総排出量合計	35,371 t	31,856 t	32,974 t 104 %	
再生利用量	直接資源化量	650 t	780 t	386 t 49 %
	総資源化量	11,898 t	11,857 t	6,698 t 56 %
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh
減量化量	中間処理による減量化量			
最終処分量	埋立最終処分量	1,729 t	1,508 t	3,143 t 208 %

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標		現 状 (平成27年度)	目 標 (令和4年度) A	実 績 (令和4年度) B	実績 /目標
総人口		94,147	90,963	91,067	—
公共下水道	汚水衛生処理人口				%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口				%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	1,860	1,909	766	40.1 %
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	2.0 %	2.1 %	0.8 %	40.1 %
未処理人口	汚水衛生未処理人口				

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

(ごみ処理)

事業系ごみの1事業者当たりの排出量では、小規模小売業が減少した反面（H27年度比10%減）、大規模小売業が事業を開始したしたことにより1事業者当たりの排出量が増加したものと推測される。

生活系ごみでは、新型コロナウイルスの感染拡大や燃料費高騰等の社会的要因による、巣ごもり需要者の増加によって排出量が増加したものと推測される。

再生利用量では、ごみ焼却施設（クリーンピア射水）での熔融スラグ製造休止が大きな要因と推測される。また、ペーパーレス化・容器包装の軽量化・新型コロナウイルスの感染拡大による集団資源回収の中止もあって、資源の分別化に対する意識の薄れがあると推測される。

最終処分量では、熔融スラグの利用が進まなかったことや、熔融スラグ化のコスト高で熔融炉を休止したため、焼却灰を焼却固化物として埋め立てていることが要因と推測される。

(生活排水処理)

合併浄化槽の目標は達成しなかったが、市全体の汚水衛生未処理人口は目標を達成しており、問題ないと考えている。

### 3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和10年度まで

事業系ごみでは、多量排出事業者に対して「事業系一般廃棄物減量・資源化計画書」の作成と提出の指導。「とやまエコ・ストア制度」の周知・啓発。収集運搬業者と連携した排出事業者への働きかけ（分別排出の徹底や資源化の協力要請）。ごみ自家処理機材（事業所用）購入費補助金交付事業等を推進していく。

生活系ごみでは、小学4年生を対象にした「いみず環境チャレンジ10」事業の実施や、ペットボトルキャップ再生材を使用した環境教育事業の推進。市HP・公式LINE・ケーブルテレビ・市広報（環境トピックス）を活用し、ごみ分別の知識やごみ処理・海洋ごみの現状などを積極的に周知・啓発することや、市民環境講座や出前講座等による市民説明会を開催。また、バイオマスプラスチックを使用した燃えるごみ指定袋を作成し、化石燃料の使用量を減らすことによる温室効果ガスの削減だけでなく、地球温暖化防止に向けた意識啓発にも繋げる。不用品等の再使用促進では、フードドライブ事業の開催による食品ロスの削減を推進していく。

再生利用量では、市民の利便性及びリサイクル率の向上を図るため、「プラスチック製容器包装」の常時回収ステーション設置。新型コロナ感染防止のため中止となった資源再利用推進報奨金交付事業による資源集団回収活動再開の支援。プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律に基づく、プラスチック使用製品廃棄物の一括回収・再商品化を実施し、資源化を推進していく。

(都道府県の所見)

目標未達成の指標について、要因を分析し、取組みを強化するものであることから、今後、上記方策を着実に実施することにより、目標達成に努められたい。

(技管協の所見)

目標を達成しているため所見はない